



大井浄水場の排水塔

現在、水道水1mを供給すると5.5円の赤字となる。年間約6600万円の供給損が生じている。耐震化されていない老朽水道管更新の予算は、年間約2億円である。このままでは更新完了まで12年以上かかる見込みで、県内でも遅れている。他方、水道料金は県内でも4番目の安さであり、一世帯あたり月1000円程度の値上げで供給損を解消できる。市の考えは、

総合的に勘案し、判断する。

福岡中央公園、内田児童公園などの土埃、段差などの対策は、舗装には多額の費用を要し、芝生等はなかなか根付かないが、対応策を検討する。福岡中央公園等の段差は、現地を確認して随時対応する。

公園の土埃、段差等対策

例えば、苗間みほの公園の開園には、総額約1億9800万円を要している。こうしたことをより具体的に分かりやすく伝えるため、市報、ホームページ等に事業の目標、施策指標や予算等市民が行政活動を評価する材料を明示しては、市民に分かりやすく伝える方法を研究する。

市報等に事業の目標や予算を明示

小学校で教科としての外国語が実施され、4年生に外国語活動時間が拡大される。完全実施となれば3、6年生で年間35時間増える。

教員の多忙化が大きな社会問題になっているが、その要因に学習指導要領改定による影響があるのでは。小学校で教科としての外国語が実施され、4年生に外国語活動時間が拡大される。完全実施となれば3、6年生で年間35時間増える。中学校の部活など教員の時間外勤務の実態は、昨年6月の県の調査によると、勤務時間を除く在校時間の1日平均は、小学校で2時間48分、中学校で3時間2分となっている。市の教職員も同程度の在校時間があると認識している。

教員の負担軽減の取り組みは、各支援員の配置により教員が授業に専念できる環境整備に取り組んでいる。今年度、校長・職員による働き方改革推進委員会で、勤務時間の把握や健康管理、部活動におけるルール等を検討している。



国民健康保険税の減免で子育て支援を

山田 敏夫議員

国民健康保険の広域化が平成30年4月から始まる。広域化による国保制度の改正に合わせ、子育て世帯を応援する本市ならではの新たな施策を検討してはどうか。第3子以降の保険税均等割を減免している事例もあることから、市としても実施に向けて前向きに検討を進めたい。

運動公園を花いっぱいにする

市民の憩いの場を設けたり、公園の周囲を活用して健康づくりのためジョギングコースを設定してはどうか。花卉等を植栽して市民に来ていただけるようなスペースが確保できるよう検討していく。また、ジョギングできるコースなどについても検討していきたい。



上福岡プールの跡地の活用を

公園内のプール跡地はどうするのか。子どもなどがボール遊びできる多目的広場について検討していく。

部活動への支援・充実で中学校生活を豊かなものに

西 和彦議員

文部科学省は、4月から外部人材が顧問として単独で部活動を指導・引率できる「部活動指導員」を置くようにした。この制度の活用により中学校部活動の支援・充実を図っては。部活動に加入している生徒は2632名で、加入率は89.89%になっている。この制度の導入により、教職員の多忙化



外部指導者による指導

解消や生徒への適切な技術指導等が可能になるが、人材の確保が課題である。今後、制度の活用に向けて研究を進める。夜間照明施設設置でスポーツ機会の拡充を

市内唯一の人工芝グラウンドの利点を生かし、スポーツ機会の拡充と施設の利便性を向上させる方策として、多目的グラウンドへ夜間照明施設を設置し、活用促進を図っては。設置費用等も考慮した中で、多目的グラウンドの利用率向上の観点から検討したい。

水道事業の財政健全化

渡辺 大議員

教員の多忙化を解消し教育の充実を

新井 光男議員

道路・歩道の整備等

大築 守議員



国道 254 号鶴ヶ岡地区

歩道上の樹木を植え替えては。歩道が隆起し、安全に歩くことができない所は根の部分を撤去し、計画的にバリアフリー対策を実施している。植え替えについては検討する。

鶴ヶ岡地区の分離帯の整備を

国道254号の中央分離帯の整備とUターン路の拡張は。緊急車両用の通行帯の整備や緑石の撤去を川越県土整備事務所に要望していく。

市民憩いの森をより使いやすく

南側のグラウンドゴルフ場にトイレを。契約で借地の現状変更が禁止されている。新たな構造物を設置するのは難しい。今後の検討課題としていく。

運動公園の一体的な整備を

旧県立福岡高等学校跡地と運動公園をつなぐ自転車・歩行者用の橋の設置は。県とも協議が必要で、今後も実現の可能性を研究していく。